

お知らせ 仙台スタジアムごみ減量 大作戦プロジェクト

仙台スタジアムのごみ減量 今年の注目点は弁当容器

2003年度にMELON創立10周年記念事業として立ち上げた「仙台スタジアムごみ減量大作戦！プロジェクト」。これはサッカーJリーグチーム「ベガルタ仙台」の仙台スタジアムで行われる主催試合において出るごみの減量に取り組み、最終的には他のイベントでも応用できるようなごみ減量システムの確立を目指しているものです。まだシステム作りの途中であるため、2004年度も活動を続けています。

2003年度の活動成果（紙コップの分別・リサイクル等）がチームボランティアさんの作業として定着したので、2004年度は次なる目標として弁当容器、レジ袋、割り箸などの減量を目指し、ヒントを探っています。

今後もスタジアムでの調査活動を続けていく予定です。興味のある方は調査ボランティアとして参加しませんか？ご連絡お待ちしております。



サンプリング調査中



インターネットがすべて？

子どもたちの周辺に次々とおこる問題の中で、インターネットを利用したり、関連したりした事件もたくさんあります。それはもちろんインターネットに限ったことではありません。テレビなどのメディアも同じ。そして問題は子どもに限ったことではないということを実感しなければなりません。

この読み聞かせのシリーズを読んでいただいている方なら、もう、パソコンや携帯電話をどんなにうまく使っても、相手に伝えることができるのはほんの一部だということがおわかりになっていることと思います。さらに、人と人とが話をする、一つの場所で会うことは「情報を伝える」ことだけではない、もっと別の働きもたくさんあるはずなのに、町内会やPTAをはじめとして、地域や学校、職場などの会合はあいかわらずだと思っているかもしれません。自分の子どもやその友だちも含めた小さなところから、地域の人々の集まりまで、そのコミュニティをどんなふう育て、そして大切にしていけるのか、もっと真剣に考える時代がきたのかもしれない

せん。「読み聞かせ」の課題は読み聞かせにとどまらないのです。

「ちきゅうのこどもたち」
（グードルン・ハウゼヴァ
ング 文、アンネゲルト・
フックスーパー 絵、酒
寄進一 訳：ほるぷ出版）
は1990年に出た本で、おと
なたちが楽な生活をするた
め地球環境を壊しているこ
とに気づいていくお話です。



本の中で、子どもたちが生きていくのがこわいのだということを知り、おとなたちが地球に尋ねます。「生きるたのしみですって？わたしたちは、こどもになんでも買ってやってるじゃないですか。はやりのふくをきせて、子どもたちのために、家じゅうだんぼうしているのですよ。おまけに、テレビでは一日じゅう、子どもの番組をやっている。そのどこが、こわいというんです？」これをそのまま、子どもたちのコミュニケーションに主題を置き換えてみましょうか。ほら、そのまま、最初に話したような今おきている携帯電話やインターネットの問題が浮かび上がってきたりしませんか。